

大阪府の地震

2026年2月

目次

近畿地方及びその周辺地域の地震活動	1
-------------------	---

震央分布図と断面図

概況

近畿地方で震度1以上を観測した地震	2
-------------------	---

府県別震度一覧表と震央分布図

・大阪府で震度1以上を観測した地震

※2月に大阪府で震度1以上を観測した地震はありませんでした。

地震一口メモ No. 249	3
----------------	---

津波から身を守る

* 「大阪府の地震」は月1回発行し、近畿地方及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行います。また、「地震一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

* この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

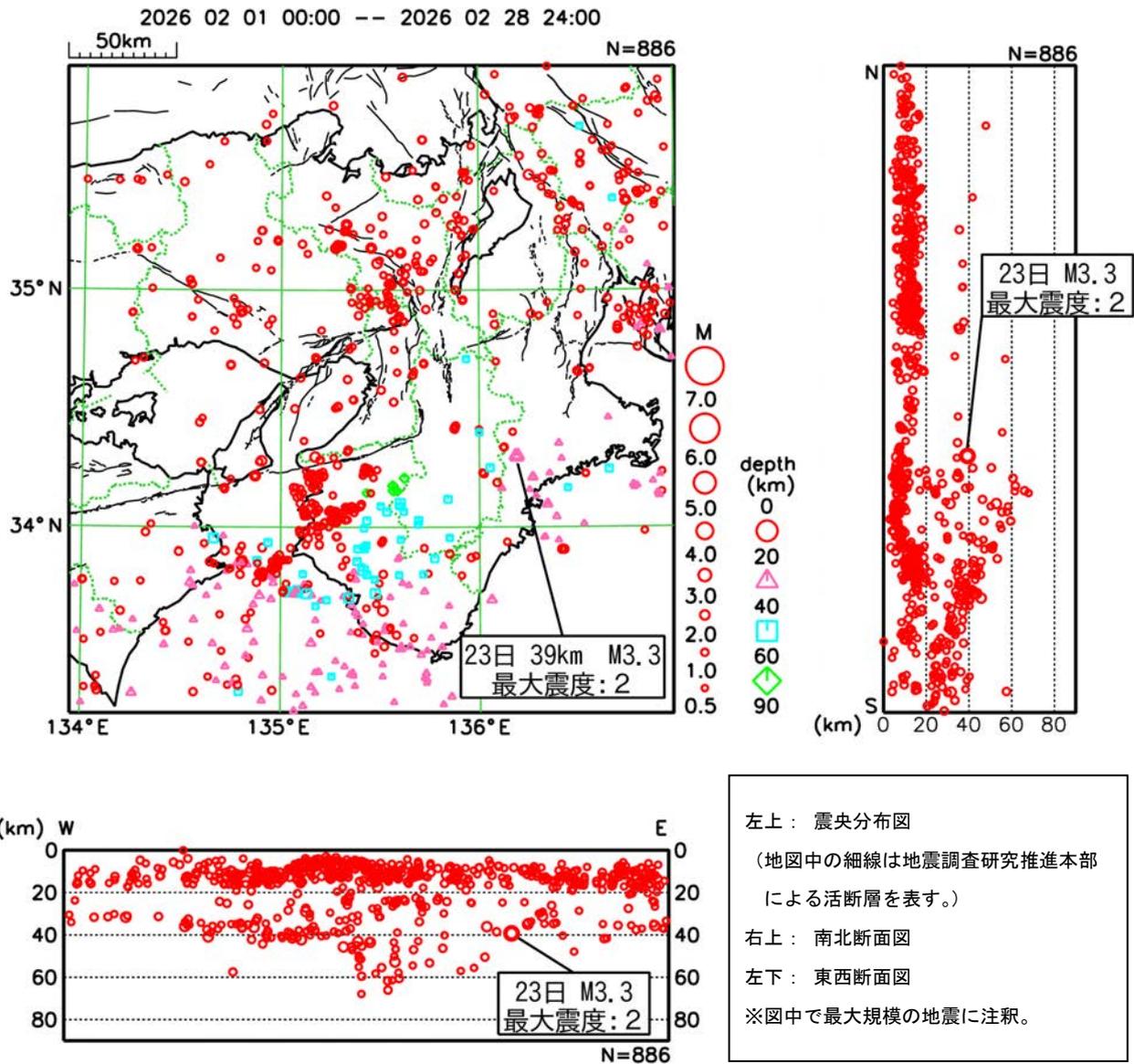
* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

大阪管区气象台気象防災部地震火山課

近畿地方及びその周辺地域の地震活動

(2026年2月1日～28日)



概況

2月の上図の範囲内におけるM(マグニチュード)2.0以上の地震は36回(前月45回)でした。このうち最も規模の大きかった地震は23日の三重県南部の地震(深さ39km、M3.3)で、この地震により、奈良県御杖村で震度2を観測したほか、三重県、奈良県で震度1を観測しました。

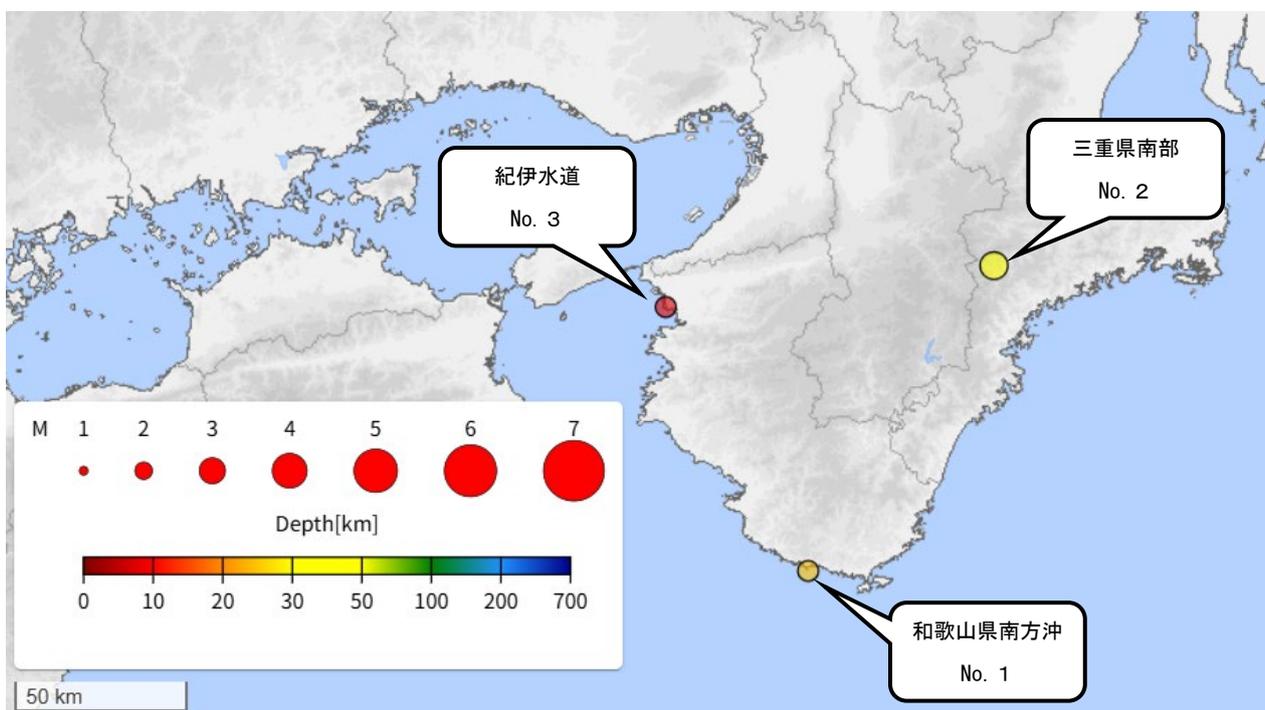
2月に大阪府で震度1以上を観測した地震はありませんでした(前月4回)。また、2月に近畿地方で震度1以上を観測した地震は3回(前月12回)でした。

近畿地方で震度 1 以上を観測した地震

府県別震度一覧表

2026年2月1日～2月28日

No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ	M	最大震度	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	
	年月日	時分秒		度分	度分	km									
1	2026/2/9	10:13:17	和歌山県南方沖	33° 29.4'	135° 36.0'	25	2.5	1							1
2	2026/2/23	14:35:02	三重県南部	34° 17.9'	136° 11.3'	39	3.3	2						2	
3	2026/2/28	11:37:17	紀伊水道	34° 11.4'	135° 08.8'	7	2.3	1							1



震央分布図

(注釈の番号は上記の表の番号に該当します。)

津波から身を守る

2026年は、津波によって甚大な被害が発生した「東日本大震災」から15年の節目の年となります。

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震では、東日本の太平洋側を中心に全国の沿岸で津波を観測しました。岩手県大船渡市では、現地調査の結果15mを超える津波が到達していたと推定されています。

大阪周辺では南海トラフ地震発生時の切迫性が高く、東北地方太平洋沖地震と同程度の規模である南海トラフ巨大地震(※1)が発生した場合は、大阪府でも高いところで5mの津波が来襲すると想定されています。 ※1 科学的に想定される最大クラスの南海トラフ地震

そこで、津波から身を守るために知っておいていただきたいことを、今回の一口メモでご紹介します。

■ 津波を知る

津波は、地震で海の底が動いて、その上の海水を押し上げることで発生します(図1)。海の表面だけが動く普通の海の波(風浪)とは違い、海底から海面までの全部の水が一体となって押し寄せ、数分から数十分周期で押し引きを繰り返します(※2)。津波の力は非常に強く、高さ20~30cmの津波であっても速い流れに巻き込まれてしまうおそれがあります。 ※2 津波は「引き」から始まるとは限りません

また、津波の速度は非常に速く、見てから逃げるのでは間に合いません(図2)。

さらに、津波が繰り返し押し寄せる際に、波の反射などの影響で、第1波よりも後の波のほうが高くなることもあるほか、波が元の状態に戻るまで数日かかる場合があります。



図1 津波の発生

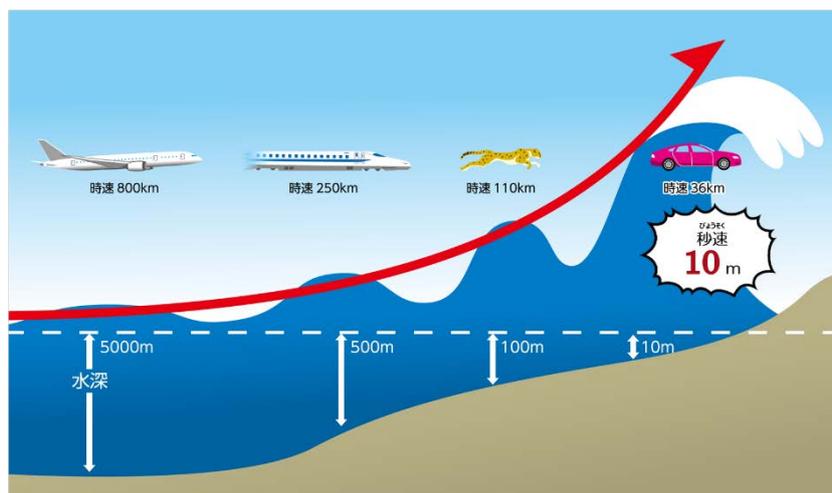


図2 津波の伝わる速さと高さ

■ 津波に備える

～危険な場所の確認～

自宅や学校、職場周辺において、津波に襲われる可能性のある場所をハザードマップや周囲の地形から確認しておきましょう。海から離れていても、川に沿って津波が襲ってくることもあります。



～避難場所の確認～

津波避難場所や避難ビルがどこにあるのか、またそこまでの避難経路などを事前に確認しておきましょう。避難場所は1か所だけでなく、さらに高い場所にある別の避難先も調べておくと、より安全につながります。



～訓練への参加～

災害が発生した際にどのような行動を取るべきかを考えておくだけでなく、その行動を練習しておく必要があります。実際に避難経路をたどってみることで、気づいていなかった危険な箇所を発見することもあるかもしれませんので、積極的に訓練に参加しましょう。

■ 津波から逃げる

海辺で強い揺れを感じたら・・・

長くゆっくりした揺れを感じたら・・・

津波警報等を見聞きしたら・・・

解除まで気をつけて

❖ 津波は繰り返し襲ってきます。津波到達後も津波警報・注意報が解除されるまで気を緩めず、避難を続けてください。
津波警報が出ている間は、絶対に戻ってはいけません。

絶対に戻ってはダメです！

あの様子を前に帰っていいですか？

ものを取りに家に戻りたい

海辺から離れ
より高い安全な場所へ!!

注意報でも海中は危険

❖ 津波注意報が出ているところでは、海水浴や磯釣りは危険です。ただちに海から上がって、海岸から離れてください。

津波フラッグは避難の合図

❖ 赤と白の格子模様のこの旗は、津波警報等が発表されたことをお知らせする合図です。この旗を見たらすぐに避難しましょう。

正しい情報を入手

❖ テレビやラジオ、広報車、防災行政無線、携帯電話やスマートフォンなどを通じて正確な情報を入手しましょう。

津波から命を守るためには、海から離れ、高いところへ逃げると意識を持つこと、避難経路などを事前に確認しておくことが大切です。

この節目を機に、日ごろからの備えを改めて見直してみたいかがでしょうか。

(参考) 気象庁 HP

「津波から身を守るために」

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jishin/tsunami_bosai/index.html

「津波発生と伝播のしくみ」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jishin/tsunami/generation.html>